



自宅を訪れた生徒たちとの触れ合いに笑顔を見せる小林さん



【左】丁寧に拭き掃除をする高浜さん 【中】持参したほうきで電灯の埃を落とす浅利さん 【右】リモコンの電池をチェックする高橋さん

感謝と笑顔があふれる

平成4年から一人暮らしだという小林さんがテクノボランティアを受け入れたのは今回が2回目。前は

この日は、約1時間半の活動で、照明器具7つとエアコンのフィルターを掃除。リモコンとガステーブルの電池を新品に取り換えました。

やガステーブルの調子が悪く、小林さんが困っていることを知り、リモコンとガステーブルの電池の残量が十分かをチェックします。

次に、ファンヒーターのリモコンを紹介を済ませると、さっそく照明器具の場所を確認。「すみません、椅子をお借りしても良いですか」と声を掛けながらテキパキと器具を外すと、電灯やかさの埃を落として丁寧に拭いていきます。

3人は小林さんにあいさつと自己紹介を済ませると、さっそく照明器具の場所を確認。「すみません、椅子をお借りしても良いですか」と声を掛けながらテキパキと器具を外すと、電灯やかさの埃を落として丁寧に拭いていきます。

思いを胸に技術を発揮

生徒の成長につながるボランティア活動

浅利さんは「最初はとても緊張したけれど、徐々に手際もよくなり、進んで話もできるようになりました」とこやかに語ります。同高校電気科の生徒は1・2年生の時に第

6年ほど前だったといいます。「気持ちちはあっても体が動かない。言葉にならないくらいありがたい」と感謝は尽きません。

生徒たちが気になる様子で「大丈夫？」「必要な物があれば言ってね」と声を掛ける小林さん。「若い人に来てもらえただけでもうれしい」と終始笑顔を見せていました。



夏場に使ったエアコンのフィルターも点検してきれいに掃除。生徒たちを見守る小林さんは「自分ではとてもできない」と感謝



● 高浜 英司 さん ● 小林 幸子 さん ● 浅利 大輝 さん ● 高橋 楊士 さん

特集 人と触れ合い社会を学ぶ — 中高生の社会交流 —

学校で学んだ知識を地域で生かしたり、将来に向けて未知の現場に触れたり、さまざまな形で社会交流の活動を行っている市内の高校生や中学生。その活動の一部を紹介します。

水沢工業高校 テクノボランティア

県立水沢工業高等学校（藤原校長・生徒449人）では、学科ごとにテーマを設けて課題研究を行っています。ロボットや工業製品、インテリアの製作、コンピュータを使った実習など、工業高校らしさが目立つテーマの中、異色を放つのが、電気科の3年生が取り組んでいる「テクノボランティア」です。

この活動は、授業で学んだ知識や技術を生かして地域社会に貢献しようとして平成14年から始まったもので、高齢者の自宅を訪問し、電気関係の点検や清掃、消耗品の交換などを行います。取り組み開始から昨年までに84人の生徒が参加し、延べ241軒の世帯を訪問しています。

ことしテクノボランティアに参加した生徒は6人。3人ずつ2班に分かれ、水沢区内の17軒を訪問して活動を行ってきました。県内でも他に類を見ないこの活動は、地域貢献のボランティア活動という目的以外にも、生徒たちが学校から地域に出て人と交流する「社会勉強」の側面もあります。

今回、11月24日に行われたテクノボランティアの活動にお邪魔しました。